

日長および光量がスプレイカーネーションの 開花・品質に及ぼす影響

1. 試験のねらい

スプレイカーネーションの晩生品種には人気品種が多く、このため生産も多い。ところが、これらの品種は夏季の強日射に伴う高温環境下で品質の劣化を起こす。更にまた、花成の限界日長が長い場合、短日区になると到花日数が著しく長くなり、生産上効率が悪い。

本報では夏季の強日射の遮光による温度制御と、短日期の長日処理が品質および到花日数に及ぼす影響について検討し、栽培技術の改善に資する。

2. 試験方法

晩生品種はアリセッタ、対照品種に早生のファンタジア、中生のプリンセサを供した。

6月11日に挿し芽、7月2日に定植、7月17日にピンチを行い、4本仕立て一斉切り短期栽培の作型で下記の処理を行い検討した。供試個体数は1区36株とした。

区No.	遮光	日長	処理	区No.	遮光	日長	処理
1	無	夜中断	(22:00~2:00)	4	有	18時間日長	(4:00~22:00)
2	有	"	"	5	無	無	
3	無	18時間日長	(4:00~22:00)	6	有	"	

遮光は7月2日から10月19日まで、快晴時のみ10:00~15:00の間、遮光率50%のクレモナ黒600#で行った。長日処理は8月20日から60日間、4時間の夜中断と18時間の日長延長により行った。長日処理の光源には白熱灯を用いた。

3. 試験結果および考察

- (1) 早生品種のファンタジア、中生品種のプリンセサは全区とも試験期間内に開花した。晩生品種のアリセッタは、無遮光・夜中断、無遮光・18時間日長および遮光・夜中断の3区で100%開花した。その他の区は100%開花に到らなかった。
- (2) いずれの品種も遮光により開花が遅延した。この傾向は晩生品種ほど顕著であった。
- (3) 遮光の有無にかかわらず、いずれの品種も長日処理で開花が促進された。長日処理については18時間日長よりも夜中断の方が開花促進効果が顕著であった。
- (4) 切花長は早・中生品種の遮光区が長くなったが、晩生品種のアリセッタでは差がなかった。一方、長日処理では自然日長区が最も長く、次いで18時間日長区、夜中断区の順となった。節数、切花重でも同様の傾向が認められた。
- (5) 二次蕾の形成はいずれの日長区も全品種とも遮光区で多くなった。また、晩生品種のアリセッタでは日長の区間差は認められなかった。
- (6) 花径に対する遮光および日長処理の影響は認められなかった。

4. 成果の要約

花成の限界日長が長い晩生品種アリセッタの開花は、花芽形成前から発蕾期まで、深夜4時間の夜中断を行うと1.5か月程度開花が促進される。なお、高温期の遮光は開花を遅延するが、量的形質は向上する。

(担当者 花き部 鈴木正史)

